

肢体不自由者に外出情報、NPO が冊子 バリアフリー状況紹介

肢体不自由者の外出をテーマにした冊子「よこはま ist (イスト).」が、7月下旬に創刊された。企画・編集した NPO 法人「よこはま地域福祉研究センター」(横浜市中区)は「お出かけを楽しんでいる肢体不自由者は多い。本人とその家族の思いや情報を集めた一冊」と紹介している。

B5 判、オールカラーの 36 ページで税別 370 円。「ist」は「いっしょに/そとで/たのしもう」の頭文字から取った。県内の肢体不自由児を持つ保護者たちの情報を基に構成し、保護者 8 人もスタッフとして参加。趣旨に賛同した「ジアース教育新社」(東京都千代田区)が印刷などで協力し、3 か月がかりで発行にこぎつけた。

表紙は、車椅子の肢体不自由者と両親が出かけている楽しい写真。ページをめくると、横浜市街地を中心に県内各地の観光スポットやバリアフリーの状況が紹介され、肢体不自由児の家族へのインタビューも掲載されている。出かけて困った経験や、さりげない優しさにうれしかった出来事などが、

家族の目線でつづられている。

インタビューした家族に共通するのは「一緒に生きていく社会だから、みんなに障がいへの理解と想像力を持ってほしい」という思い。社会のバリアフリーを実現するために出かけているという人もいた。同センターの佐塚玲子センター長(55)は「出会いや刺激を求めてお出かけするのは、誰もが同じ。積極的にお出かけする肢体不自由者たちの思いも伝えたくて、『お出かけマインド発信マガジン』と副題をつけた」と話す。

初版は 2,000 部で、今後増刷する予定。横浜市内の一部書店やアマゾンなどで販売し、市内の図書館や病院の待合室でも手に取れるよう、行政や医師会にも働きかけているという。次号の発行は未定だが、佐塚センター長は「横浜以外の地域でも、保護者の方たちの力を借りて発行していけたらいい」と話している。購入の問い合わせはジアース教育新社(03・5282・7183)。

(読売新聞・神奈川 2015 年 9 月 20 日)